
日本児童文学学会 12月例会のご案内

拝啓 晩秋の候、皆様方におかれましては、ご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび、日本児童文学学会12月例会を下記の通り、オンラインで開催いたします。会員以外の方でも事前申し込みをいただければ参加できます。お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。

- ・発表1 = 赤木由子『はだかの天使』における「天使」表象
— 介助者・子ども・障害者を「天使」に象る現象の輻輳として—
小笠原未鮎（お茶の水女子大学大学院博士後期課程）

《概要》

赤木由子『はだかの天使』（1969年）は障害児をめぐる社会問題を取り扱った画期的な児童文学とされるが、「天使」表象については批判や疑問がある。本発表では、同時代において「天使」表象を障害児に付与することには、どのような意義があったのかを考察していく。

- ・発表2 = 現代絵本における「行きて帰りし物語」の換骨奪胎
— ポストモダン絵本およびそれ以降の展開を中心に—
村田康常（名古屋柳城女子大学）

《概要》

本発表では、瀬田貞二が子どものための物語の典型的構造とした「行きて帰りし物語」の構造をもつ絵本を取り上げる。特に、1970年代以降にこの物語構造をベースにして絵本表現の幅を広げる様々な試みがなされていることを検討したい。

- ・司会 = 土居安子（大阪国際児童文学振興財団）

<日 時> 2023年12月9日(土) 午後2時～4時

<参加費> 無料

<参加方法> Zoomを用いたオンライン開催

※参加ご希望の方は、以下のGoogleフォームでお申し込みください。

折り返しZoomのURLをお送りいたします。万が一、届かない場合は例会担当
(jscl.tokyo@gmail.com) までお問い合わせください。

当日は、午後1時45分以降に、ZoomのURLにアクセスください。

お申し込み時と同じお名前で入室をお願いします。

お名前が一致した方の入室を許可いたします。

※申し込み締切：12月6日(水)

参加申し込みフォーム

<https://forms.gle/x96xxK3ZLWEDN7248>

